

作成日：2024/7/25

作成者：小久保 聡

事業報告書

日 付	2024 年 7 月 19 日（金）	時 間	15：00～16：30
場 所	埼玉会館 3B 会議室	出席者	出席者名簿参照
議 題	埼玉県環境部産業廃棄物指導課・埼玉県環境産業振興協会青年部 令和 6 年度 座談会		

内 容
1. <u>開会</u> 2. <u>部会長挨拶</u> 3. <u>産業廃棄物指導課課長挨拶</u> 4. <u>協会事務局挨拶</u> 5. <u>出席者照会</u> 6. <u>議事</u> 6-1 <u>3S 運動活性化について、埼玉県に協力することが業界全体の底上げにつながります。どのようなことが協力できるでしょうか。</u> <u>＜3S 運動の継続について＞</u> ・他社の取り組みを見ることで、気づかなかった視点や、改善点を知り、自社でも取り入れたいと思った事例が多々あったので非常に参考になる ・3S 運動の輪を広げることは、業界イメージの向上に大きく繋がる ・3S 運動を通じて、廃棄物業界も「人から見られる仕事」として従業員に浸透させたい ・例として、ユニフォーム（作業着）の色あいも各社テーマがあり、非常に参考になる <u>＜怖い、乱暴的なイメージが業界にあるか＞</u> ・むしろ排出事業者の方が怖い（カスタマーハラスメント）※昔気質の人が多いと ・スクラップ業者の「外国人ヤード」のイメージと重なる人が多い ※メディアが産業廃棄物業者と伝えるため ・外国人による違法ヤードの取り締まりを、行政にもしっかり強化してほしい ・過去に風評被害があった際、工場をオープンにし見学会を行い、お客様や地域住民に理解を求めた また見学会を行うことで、従業員も「見られる」意識が芽生え、相乗効果もあった ・3S 運動もマンネリ化の視点もあるが、県民の日で廃棄物を知ってもらい「継続することに意味がある」

6-2 今年度の「県民の日」ブース出展について、例年以上の啓蒙を図るために、どのような出展内容が理想でしょうか。

- ・【指導課】 例年同様の規模で開催を希望 パッカー車も継続 リサイクル品の展示などブラッシュアップしたい
ブースの場所も、パッカー車のエリアもすでに決まっている
- ・お子様の来場者が多いので、アンケートの漢字が読めない時があった
→年齢によって内容を変更するのは？ またはアンケートの機械を大人と子供で分けるのは？という提案
- ・缶バッジの作成は良かった パッカー車では子供の目が輝いていた ヘルメットをかぶるのも喜んでいて
- ・アンケートの返答数は足りているか？ オープンデー最大の来場者数ということもあり、十分なボリュームがあった
- ・県民の日は小中学校が休み 600 個の缶バッジを配布 イメージアップの効果検証には良い結果となった

6-3 多様な人材の確保と育成について情報共有をお願いします。

(外国人の採用、育成について、外国人の業務内容等、採用後に苦慮していること)

- ・人材としてほしいドライバー業務での採用が難しい
- ・宗教上の理由で断食などもあり、業務に支障がでないか心配な部分もあるが非常に助かっている
- ・準備運動の「ラジオ体操」を教えるのが大変だった
- ・8カ国の海外人材を採用（主に、フィリピン、バンコク、インド、中国など）
国を離れて働いているので非常にやる気がある そして非常に明るい性格方が多い
- ・やる気がある海外の方と業務をすることで、従業員にも良い影響を与え相乗効果がある
- ・英語ができる従業員を通じて通訳している いまはスマートフォンの翻訳機能も生かしている
- ・海外の方と接触をすることで、異文化交流にもつながり勉強になる
- ・日本語を懸命に勉強しているが、同じ国の従業員同士では、母国語の会話になって話している
- ・ずっと働いてくれるかわからない部分もあるので雇用に不安もある
- ・自分の時間を大切にする 帰国して1～2週間ほど不在になることもあり、シフトに影響することもある

<業界全体の人材不足について>

- ・廃棄物業界＝外国人スクラップヤードの悪いイメージがある 行政としての取り締まりについては？
外国人による新規参入のスクラップヤードの規制を厳しくする必要性があるのでは？（入管で厳しくする等）
- 【指導課】 不審な動きをしている情報がなかなか入らず指導の対象が難しい

6-4 不適正処理業者が適正処理業者の業務に影響を及ぼしている具体的事例がございましたら
情報共有をお願いします。

【指導課】 例えば外国人を安価に雇用することでコストを削減し、処理費用を安価にして仕事を請け負う等
→そのような事例はない 業務品質の向上のため、安い労働力を求めている

- ・人材雇用において、社員の家族や子供を紹介してもらい採用するケースもある
他社よりも給与条件を高くし、雇用を厚くすることで人材を確保し、その分の費用をお客様からいただく
- ・そもそも安価に処理を請け負うことで、適正処理を行うことができるのか
よって、価格競争の部分はあるが、ある一定の価格帯は保ちたい
- ・例としてスクラップヤードの許可規制が無いので、住民から多くのクレームがあって初めてわかることがある
そのような業者との違いを示すためにも、廃棄物業界の普及活動が必要となる
- ・違法スクラップヤードは、テレビ等で大々的に取り上げられないと、立ち入り検査へ動けない現状があるのか？

【指導課】 不法投棄なども現行犯でないと難しい現状がある 証拠をつかむのも大変

「ゴミではない」、「自分のではない、他の人だ」等の言い訳、外国へ戻り連絡が取れない等

- ・不用品回収業者も怪しい 事業系一般の許可が無いのに、あると嘘を言う業者もいる

6-5 昨今の排出事業者の廃棄物に対する意識についての率直なご意見をお聞かせ下さい。

処理費用の相場についての率直なご意見をお聞かせ下さい。

(※時間の都合により双方の議題を合わせての協議)

【指導課】 埼玉県としても実態を把握しきれていない部分があり苦慮している

- ・電気代、薬剤も高騰化し、最終処分先への輸送費も高い
大手取引先は理解があるが、遠方の業者ほど、仕事が欲しく安価に請け負うケースがある
一定数の最低単価条件がないと、業者同士での価格の叩きあいになる
- ・廃プラの排出量が減少し、廃棄物業者間で取り合いになり、処理費用を下げ価格競争が生じている
- ・例として) 印刷会社のインク付き廃プラを破碎処理で行い、考えられない安価で処理している案件があった
印刷業も売上に苦戦し、安い業者を選定している
- ・処理費用が値上げ傾向であるが、なかなか上がらない
環境的に廃棄物が減少することは良いことだが運営が辛い バランスが難しい
- ・ドラム缶も金属価格の高騰でリユース販売よりも、スクラップで売却する傾向もあり、ドラム缶が高騰している

<個人からの廃棄物の問い合わせについて>

- ・住民から処理困難物の件で市町村に質問すると、産業廃棄物業者へ問合せするように指示があるが
許可の関係で受け入れできない 埼玉県として柔軟に対応できる仕組み（特別許可等）ができると良い
例) 亡くなった身内が事業をやっていて、残されたゴミに困っている、という内容の問合せ

【指導課】 本来、市町村で対応できないことがおかしい 同様の問い合わせが埼玉県にも届いている

市の担当者が毎年変わり、引継ぎ・把握が出来ていない現状がある

市町村から廃棄物業者に委託することで対応ができるはず

適正処理を促すために、処理困難物＝産業廃棄物業者ではないという事の周知徹底が必要とされる



